

第4学年 「生きる」教育 学習指導案

指導者 仲井間 純 中西 奈都子

1. 日 時 令和8年9月9日(水) 6時間目(14:10～14:55)

2. 学年・組 第4学年 1組 男子16名、女子11名

2組 男子17名、女子10名

3. 題 材 「10歳のハローワーク」

4. 題材のねらい

- (1) 今の自分を振り返り、ありのままの自分を友だちに話し、また、友だちの思いを聞くことで、自分と相手の相違点を見つけ、互いの違いを認め合うことができる。
- (2) 今の自分を振り返り、言葉で表現・整理することで、安心して自分の将来像を描くことができる。
- (3) 自分が将来就きたい職業について知り、今、自分がやらなければならないことを考え、これからの生活に生かすことができる。

5. 使用教材

- ワークシート：①仕事調べワークシート、②児童用の自己紹介カード、③未来年表ワークシート、④「身につけたいこの力！」オークションリスト、⑤オークションで手に入れたちから、⑦調べるときの資料、⑧必要なカリスト、⑨10歳のわたし、⑩今までの自分をみつめよう！
- 活用する資料等：①インターネット(ベネッセ教育情報「職業適性検査」、学研キッズネット未来の仕事さがせ)、関連図書(主要図書リスト、指導案末頁掲載)
- 黒板掲示(「必要な力 カード」大と小)

6. 各教科領域との関連

教科領域	内容・単元名
国語	【命】「十年後のわたしへ」
保健体育	【命】「体の発育・発達」
道徳	【生命の尊さ】「あなたの時間にいのちをふきこめば」「ヒキガエルとロバ」 「かわいそうなぞう」 【家庭生活の充実】「家族の一員として」 【キャリア】「ぼくの草取り体験」「ネコの手ボランティア」
特別活動	【キャリア】10歳のハローワーク

7. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学年は素直で明るく、自ら進んで学級の友だちのためになることを考え、行動に移すことができる児童が多い。また、休み時間には男女分け隔てなく会話をしたり遊んだりする様子も見られる。一方で、特定の友だちと一緒に過ごす児童のグループが顕著化してきており、中には、一人で読書をしている児童もいる。

各学習では多くの児童が自分の考えを書くことができているが、自分の思いを文章に表現することが苦手な児童も数名いる。また、授業中に進んで発言しようとする児童は限られている。

(2) 題材の設定

児童は、10歳という思春期の入り口に立ち、自分を見つめ、心を揺らす時期にさしかかる。自己をもてあまし、時には外的に攻撃性として表れたり、時には内的に自己否定からくる自虐的な行動に表れたりする児童も一部いる。この時期に自分自身を見つめ直し、明るい将来設計を描くことができるような取り組みを考え、このような学習を設定した。そのため、自分のことを他人に話したり、書き出したりして心の整理をすることで自分自身のケアをしていくという視点が重要である。特に、愛着に課題を持つ児童にとって、欠かすことのできないものだと考えられる。自分とは？というワークをもとに自分自身を言葉で表現・整理することで、安心して自分の未来像を描くことができると考えた。

学習を通して、児童が自分自身を見つめ直し、友だちのことを知るきっかけになると考えられる。友だちと1対1の方法「面接形式」で交流し、友だちから見た「自分」を知ることができるようにしたい。また、社会

にはどのような職業があるのかを知り、将来に向かって自分が身につけたい力を本当の自分の力にするためにはどのようにすれば良いのかを考えることで、これからの生活に生かすことができるようにしたい。

(3) 指導にあたって

第Ⅰ次では、自分を見つめ直す作業から始めていく。まず、自分の「将来の職業」を考えることから始める。「自分が就きたい職業は？」と問われて、すぐに言える児童もいれば、社会にはどんな仕事があるのか、よく知らない児童もいる。そこで、インターネットの職業適性診断（ベネッセ）を利用して、自分に向いている職業を診断したり、学研キッズネットで自分の興味があることから仕事を検索したりして、いろいろな職業を調べるようにする。そして、その職業に就くためにはどのような経歴が必要であるか、仕事の内容はどのようなものかなど、図書室の本やインターネットで調べ、その職業に就くには、どういった未来設計を立てればよいのか考え、今後の未来年表をまとめていく。

次に、履歴書作りという設定で、自分自身を振り返り、「将来の夢」や自己アピールとして「今、自分が頑張っていること」や「できるようになったこと」などを書くようにする。その後、就職の面接と称して友だちと1対1で伝え合い、次々に相手を変えて交流していく。その際、友だちとの話について、よかったところや気づいたことなどのメッセージを伝え合うことで、友だちのことをより深く知り、話してよかった、聞くことができてよかったと思えるようにする。

第Ⅱ次では、さらに、その夢に向かってどういった未来設計を立てればよいのかを考え、まずは、今後の未来年表をまとめていく。そして、今の自分に足りない力、もっと身に付けたい力を考え、オークション形式で自分が欲しい力を競り落とすようにする。本気で自分が欲しいと思う力について考え、楽しく活動できるようにする。活動の最後に、その力を身に付けるためには、自分が何をすればよいのかを想像し、友だちの前で宣言できるようにする。

第Ⅲ次では、現在・未来への連続した活動の締めくくりとして、今まで生きてきた自分の過去（生い立ち）を振り返り、10年間の自分史を整理していく。その際には、ライフストーリーワークの視点に沿って、児童自身の思いを大切にしながら取り組みを進めていく。プライベートな内容を扱うことが予想されることから、児童の自分から聞いてほしいという自発的なつづやきを大切にしたい。そこに、仲間からのあたたかい言葉がけがあることで、共感や安心という気持ちが生まれる。その後、自分の過去を振り返るきっかけとして、10年史作りをする。特に配慮が必要な児童は放課後などに個別に聞きとりを進め、みんなに知らせてもよい情報のみを書くことを促すようにする。個別の取り組みでも、決して自己開示が目的ではなく、空白の記憶やあえて誰にも言ったことがなかった自分の辛い過去やさみしさなどがあれば、個別にその想いを共有し、一緒に文章化するかどうか相談しながら作成する。話したくないことは、話さなくてもよいということを大前提に、児童の気持ちを一緒に考えるようにしたい。学習の終わりには、児童一人一人が自分の将来や成長について期待したり、不安なときは、周りの大人に相談する力を身に付けるようにしたい。

8. 指導計画(全11時間)

次	時	学習内容字にと目標
I	6	《10歳のハローワーク ～今の自分を知らう～》 ○世の中には様々な仕事があることを知り、図書やインターネットを活用して知識を広げる。また、気になった職業について詳しく調べ、その職業に就くにはどのような方法があるのかを調べる。 ○「履歴書作り」を通して、自分とは？というワークをもとに自分自身を言葉で表現・整理し、友だちと交流することで、友だちから見た「自分」も知る。
II	2	《これから自分に必要な力について考える ～未来を描こう～》 ○調べたことをもとに「未来年表」を書く。 ○自分が将来に就きたい職業を想像したり、考えたりしながら、今の自分やこれからの自分の生き方にとって必要な力は何かを考える。(オークション形式)
III	3	《自分の10年の歴史を振り返り、年表を仕上げよう》 ～過去を整理しよう～ ○自分の生い立ちを振り返り、自分一人ではわからない年代のことを周りの大人に聞いたり、写真を見たりして、自分の歴史10年分を整理し、記録していく。 ○現在・未来と作ってきた未来予想図と過去をつなげ、自分史年表を仕上げる。

9. 授業展開

(第Ⅰ次) 10歳のハローワーク ～今の自分を知らう～

(本時5/11)

		学習活動	指導上の留意点 <使用教材>
導入	1	1. これまでに社会科で学習した「職業」について想起し、自分が知っている職業について意見を出し合う。	○環境事業局の出前授業、下水処理場へ見学に行き、学んだことなどを思い出し、「職業」について考えられるようにする。
		めあて いろいろな職業を知らう。(1時間目)	
	2	2. 「職業」について考えることを通して、「過去」「今」「未来」の自分に目を向けて学習することを知る。 3. 図書館の本やインターネットを用いて、職業調べをする。 ・気になる職業はメモしておく。 ・次時から、なりたい職業について、仕事内容や一日の生活、職業に就くまでの進路などをまとめることを知らせ、1つ職業を選ぶ。	○本学習の大きな「めあて」を確認した上で本時の学習のめあてを伝えるようにする。 ○班ごとに数冊ほどの本を置き、だいたい目を通したら、次の机へと移動するといった形で多くの職業に出会えるようにする。 <PC、図書> ○事前に職業を決めておくことで、次時では、1人1資料を用意できるようにする。
	3	1. 本やインターネットを使って、なりたい職業を調べる。 2. 調べて分かったことをワークシートにまとめる。	○仕事内容や1日の過ごし方や仕事に向ける情熱、その職業に就くまでのルートなどを調べるように伝える。 <ワークシート①>
深める		めあて なりたい職業についてまとめよう。(3時間目)	
		1. 前時までに調べて分かったことをワークシートにまとめる。 2. 調べたことをグループで交流した後、全体で発表する。	<ワークシート①>
	4	めあて 自己紹介カードを書こう。(4時間目)	
		1. 職業に就くには、職種により、様々な試験があることを知る。 2. 「履歴書」と称した自己紹介カードを書くことで、自分自身と向き合う。 ・自己紹介カードの見本を見る。 ・今の自分のことを書く。 項目5つ ・名前 ・ふりがな ・将来の夢 ・アピールポイント(今頑張っていることやできるようになったことなどを2つ書く。)	○履歴書や面接の写真を見て試験や面接のイメージをもつことができるようにする。 <PC> ○現時点での「将来の夢」や「今、自分が頑張っていること」「できるようになったこと」「困りごと」などを書くように伝える。 <ワークシート②> ○困っていることを書く際には、次時から、「面接」と称した友だちとの話し合いの中で伝え合う活動があることを伝え、友だちに話してもよい内容にすることや特定の名前を出さないことを伝える。 また、困っていることを複数書きたい児童は、アピールポイントを減らして、困っていること

ま と め る	5 本 時 ・ 6	・困っていること（みんなに教えても大丈夫な困りごとを1つ以上書く。）	を書いてよいこととする。 ○書くことが困難な児童のために、教員数名の書いたもの（見本）を資料として提示する。 ＜教員の自己紹介カード記入見本＞
		めあて 今の自分自身を紹介し合おう。（5・6時間目）	
		1. 「面接」と称した友だちとの話し合い形式で自分のことを伝え合い、客観的に見た自己とも向き合う。 2. 自分自身を振り返り、話を聞いてもらったり、友だちの思いを聞いたりしたことで、共感したことや気が付いたこと、励ましの言葉などを書き、ホットメッセージを贈り合う。	○話してよかったと思える話し合いとなるように、話を聞く児童へ相手を思いやった声かけの例を示す。 ○1対1の話し合い形式で、できるだけたくさんの人と面接できるように工夫する。 ○相談するにあたって、子ども同士がやり取りできるように話型や聞く態度、話し方を掲示物などを使って示すようにする。 ○友だちからのメッセージを必ず書いてもらえるようにし、話してよかったと感じられるようにする。

（板書計画）

1 時間目

め いろいろな職業を知ろう。

看護師、運転士、消防士、警察官
大工、パン屋さん、プロ野球選手、
歌手、アイドル、ユーチューバー

職業調べの仕方

- ・ 本
- ・ インターネット

2 時間目

め なりたい職業を調べよう。

調べること

- ・ 仕事内容 ・ 1日の過ごし方
- ・ 仕事に向ける情熱 ・ その職業に就くまでのルート

職業調べの仕方

- ・ 本
- ・ インターネット

4 時間目

め 自己紹介カードを書こう。

履歴書に記入すること

- ・ 名前、ふりがな ・ 将来の夢
- ・ アピールポイント

→今がんばっていること

できるようになったこと など

- ・ 困っていること

友だちに話してもよいこと

特定の名前は出さない。

※モニターに、教師が書いた見本を映す。

ワークシート
2・3時間目

10歳のハローワーク①

4年()組 名前()

「この職業、どんな職業？」

調べたい職業

仕事内容

1日のすごし方

仕事に向ける情熱（やりがい・やってよかったなと思うこと）

その職業に就くまでのルート

そのほかに調べたこと

4時間目

10歳のハローワーク② 履歴書

4年()組 名前()

自己紹介カード

ふりがな		
名 前		
年 月 日生 (歳)		

わたしの未来…

将来の夢（つきたい職業）

わたしのアピールポイント・困っていること

実は…
実は…
実は…

★自分のことをふりかえり思い出しながら、とくいなこと、がんばっていること、4年生になってできるようになったこと、うれしかったことなどの中から2つ選んで書いてみましょう。

★友だちに教えてもいい困っていることを1つ書きましょう。

(第Ⅱ次) これから10年の計画を立ててみよう ～未来を描こう～ (7. 8時間目)

	学習活動	指導上の留意点 <使用教材>
導入	めあて 「未来の自分」をえがこう (7時間目)	
	1. 第Ⅰ次で調べたことを踏まえて、未来年表を作成し、紹介する。 2. 自分の未来を楽しく描くことができるように、すごろくを作るような形でまとめていく。 スタート 小学校卒業 ゴール 就職、その後は人によってさまざま 3. 作成したすごろく風の年表をペアや全体で紹介しあう。	○自分の未来を楽しく描き、まとめることができるようにする。 ○希望の職業につくために、10歳以降の人生をどのように進んでいけばよいのかを、考えながらまとめるようにする。 <ワークシート③> ○はっきりと自分が目指す職業が決まっていない児童は、一つの選択肢として、今、少しでも興味がある職業について調べ、その仕事に就くためには？といった仮定の未来を考えるよう促す。 ○ワークシートを4パターン用意し、書くのが苦手な児童の手助けとなるようにする。 ○全体で交流するときは、モニターに映して紹介する。
深める	めあて 未来の自分のために、「今の自分」がほしい力を考えよう (8時間目)	
	1. 前時に作成した未来年表をもとに、「今の自分」に必要な力について考える。45個のうち、1人3つまで選ぶ。	○自分に必要な身につけたい力を3つまで選び、選んだ力の横にチップの枚数も書く。 <ワークシート④、必要な力カード>
まとめる	自分につけたい この力！オークションルール ・自分がほしい力は、1人3つまでもらえます。 ・チップは、1人10枚使えます。 ・一番ほしい力に、チップを多く使う方がよいです。 ・オークションが始まったら、予定していたチップの数を増やしてもよいです。 ・オークションでは、チップを一番多く使った人が、その力を手に入れることができます。 ・チップ10枚分でどんな力を買いたいのか、自分で予定を立ててみましょう。	
	2. オークションを終えて、手に入れた力を本当の力にするためには、今日から自分がしていくことを考え、ワークシートに記入する。 3. 交流する。	○希望の職業に就くために、今の自分に必要な力をじっくり考え、楽しみながらゲームに取り組むようにする。 ○自分が必要な力を整理し、現実的に続けていけるような努力について、どのようにすれば本当の力として身につけていくのかを考えるようにする。 ○友だちの良いところを見つけて伝えるように助言する。

(板書計画) ワークシートの見本を黒板に貼る。

7 時間目

ワークシートは、白紙かマスをかいたものにする。

(見本)

未来の自分をえがこう！(マス) 4年 組 名前()

10歳のハローワーク⑦

スタート

ゴール

すごろくの形で、小学校卒業、中1、中2、中3まで書くが、
そのあとは、15歳、16歳、17歳として、進学や就職がある
ことを知らせる。くれぐれもそれぞれの意思を優先する。

8 時間目 ワークシート⑧-1

10歳のハローワーク⑧

「自分につけたい この力！」オークションリスト

4年 組 ()

- ★ 自分がほしい力は、1人1〜3つまでチップと交換できます。
- ★ チップは、1人10まいまで使えます。
- ★ 一番ほしい力に、チップを多く使う方がよいです。
- ★ オークションが始まったら、予定していたチップの数を覚えてください。
- ★ オークションでは、チップを一番多く使った人が、その力を手に入れることができます。

さあ、チップ10まい分で、どんな力を買いたいのか自分で予定を立ててみましょう。

番号	自分につけたい力	使う予定のチップ数
1	勉強がたのしくできる力	
2	毎日きそく正しく生活をおくれる力	
3	自分の意見を言う力	
4	いやなことでもガマンできる力	
5	ダメなことを「ダメ」と言える力	
6	もめごとを解決(かいけつ)できる力	
7	相手の気持ちを考える力	
8	いやなことは「いや」と言える力	
9	しょうらいのゆめをもつ力	
10	だれかを助けることができる力	
11	ちがいをみとめ、受け入れる力	
12	自分自身を好きになれる力	
13	ルールを守れる力	
14	人にめいわくをかけない力	
15	時間を守る力	
16	えがおでいられる力	
17	人を信ずることができる力	
18	感動できる力	

19	物を大切にできる力	
20	世界に出ていける勇気を持つ力	
21	いろいろなものをかたづけられる力	
22	先を見て動く力	
23	あきらめずに最後までやりきる力	
24	きちんと話を聞く力	
25	だれとでも なかよくできる力	
26	楽しく運動できる力	
27	人を楽しませる力	
28	好ききらいをせずに何でも食べられる力	
29	正しい言葉づかいができる力	
30	パソコンがうまく使える力	
31	外国語が話せる力	
32	体を大切にできる力	
33	早起きする力	
34	機かいをうまく使える力	
35	いろんなアイデアがうかぶ力	
36	正しい字を書く力	
37	動物の気持ちがわかる力	
38	最高の記おく力	
39	何事にもチャレンジする力	
40	きびしい練習にたえる力	
41	最高の演技力	
42	絵がじょうずにかける力	
43	正しく分量をはかる力	
44	どんなときでも集中できる力	

ワークシート⑧-2

その力を現実(げんじつ)のものにするために、
今日から、がんばろう

ほしかた理由

オークションでこれに入れた力(名前)

ほしいカリスト

【必要な力 カード】



(第Ⅲ次) これから10年の計画をたてよう ～未来を描こう～

	学習活動	指導上の留意点 <使用教材>
導入	1. 「未来年表」に過去の10年を付け加え、年表そのものを完成させることを伝える。	○あらかじめ、9月17日の懇談会で、保護者に周知しておき、子どもたちの生い立ちについて、わかる範囲で教えていただくようにする。また、自己開示を無理強いしないことや、みんなに言えると思ったことだけ年表に書くことを保護者にも知っていただく。
深める	めあて 「今の自分」をせい理しよう（9時間目） 2. 「10歳の自分」を振り返り、今の自分に関する事柄をワークシートに整理する。 ・好きな遊び ・今頑張っていること、 ・好きな食べ物 ・好きな色 ・好きな教科 ・好きな芸能人 ・好きな○○3つ(9項目) 加えて、 ・私の周りにいる人 ・大切なもの	○私の周りにいる人は、「家族、友達、先生」など、自分が関わった人との交流を大切にするように伝える。 ○思い出せる範囲でよいこととする。
	めあて 「これまでの自分」をせい理しよう（10時間目） 1. 7時間目に作成した未来年表の過去バージョンを書く。 ・資料を活用したり、思い出したりしながら、自分史をつくる。 ・自分の過去を楽しく描くようにすごろくの形でまとめていく。	○自分の過去への振り返りが難しい児童には、「4年生から1年生の思い出」と逆算して過去を振り返り、言いたくない部分や記憶が空白の部分は、あえてふれないようにする。 ○個別の対応が必要な場合は、あらかじめ別室で行い、メモしてもよい児童に確認する。またその旨を保護者と共有できるようにしておく。空白の箇所があつて

ま と め る	2. 未来年表につなげて、自分史を完成させる。 めあて 「未来の自分〇年後」に手紙を書こう（11 時間目） 1. 自分にあてた手紙であることを確認し、書き始める。 2. 自分史の冊子の裏に貼って、完成させる。 3. 手紙の内容を交流したいかどうかは、自分で決める。 4. 自分史を交流し、自分や友だちの人生の物語を読んで、声を掛け合ったり励ましたったり、認め合ったりする。	もいことを個別に伝える。 《ワークシート》 ○手紙に書く際には、以下の事柄を書いてもよいとする。 ・10 年後の自分が読み返したときに、懐かしく思えるように、今の自分のことを書く。 ・未来の自分を想像して、こんな自分になっているかもという内容を書く。 ・未来の自分への励まし、アドバイスを書く。 ・心が優しく、温かくなる言葉を自分で選んで、声を掛け合うようにする。
------------------	---	---

板書計画 （ワークシートの見本を黒板に貼る）

9 時間目

10歳のハローワーク

4年組

10歳のわたし

友だちとよくしている遊びは？

今、がんばっていることは？

最近、うれしかったことは？

好きな食べ物は？

好きな色は？

好きな有名人は？

好きな教科は？

好きな

好きな

好きな

わたしのまわりにいる人

わたしの大切なもの

10 時間目

今までの自分を見つめよう！(年れい)

4年組

名前()

10歳のハローワーク

7さい

6さい

5さい

8さい

4さい

9さい

3さい

10さい

2さい

1さい

0さい

ゴール

10歳！

スタート

11 時間目（手紙用便せんと封筒）

第5学年 「生きる」教育 学習指導案

指導者 仲宗根 瑞季 中林 真理子

1. 日 時 令和8年9月9日(水) 5時間目(13:45～14:30)
2. 学年・組 5年1組(男子8名、女子16名 計24名在籍)
5年2組(男子9名、女子15名 計24名在籍)
3. 題材 考えよう!みんなの凸凹 ―子どもの権利条約からフレンドリー・プラネットへ―
※デートDV ―愛それとも支配―(※は、昨年度の資料通りに行うため割愛する)。

4. 題材のねらい

- (1) 3年生で学習した「子どもの権利条約」を想起し、子どもが権利をもつ主体であることや、自分と友達の権利を大切にすることについて理解を深める。
- (2) 「みんなの凸凹」をテーマに、友達の行動の背景には、「発達特性や愛着に関わる課題」、「これまでのつらい経験」、「環境の変化や状況に応じた調整が苦手」などが関係している場合があることに気付くことができる。
- (3) 児童それぞれの個性や多様なあり方を理解し合い、うまくいかないとき、お互いにどのような努力や、支援が必要なのかを対話の中から見出すことができるようにする。

5. 使用教材

- ・子どもの権利条約カード ・子どもの権利条約抄訳一覧 ・こども家庭庁パンフレット
- ・登場人物カード ・100m走場面カード ・心の声カード ・サッカー場面カード ・コート図
- ・ルール提案シート ・ふり返しカード(2学期)

6. 各教科領域との関連【道徳・命の安全教育の領域】

教科領域	内容・単元名
国語科	【命・キャリア】「弱いロボットだからできること」 【命】「あなたは、どう考える」
社会科	【キャリア】「情報化した社会と産業の発展―情報を生かす福祉産業―」
道徳	【命】「ことばのかたち」 【命】「ヘレンと共に―アニー・サリバン―」 【命】「これって不公平？」 【キャリア】働くということ
家庭科	【家族】「生活を見つめ、できることを増やしていこう」

7. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく好奇心旺盛で、優しい児童が多い。4月頃は、思いの行き違いや、先が見通せない不安感、学習や人間関係についての自信のなさからくる苛立ちなどで、友達とのトラブルや暴言を言う児童が見られたが、これまでの人権学習を通して、相手を大切にしようとする意識は少しずつ身についてきている。

しかし、学年・学級には、特別支援学級在籍の児童や、家庭背景にしんどさを抱える児童もあり、他者と比べて、自分の容姿を気にし、周囲と同じように行動しようしたり、違いがある他者の行動や様子を数人で批判したり、嘲笑する場面もある。トラブルやもめごとなど行動の背景には様々な要因が関わっているのだが、多感な時期もあり、他者の言動の理由などは集団になると後回しになる様子が見られる。

具体的には、目に見えにくい障がいや、情緒的な課題のある児童の困り感を十分に理解できず、結果として「もめごとになるから、いやだ」と、課題のある児童と距離を置いたり、仲間外れにつながるような関わりが見られたりすることもある。

これまでに、トラブルの際は、原因を図や文字で整理し、誤解を解きほぐしながら話し合う経験を重ねてきた。そうすることで、本人たちの成長と周囲の理解が深まってきた。

(2) 題材の設定

子どもの権利条約では、すべての子どもが、生まれた国や育った環境、置かれている状況、障がいの有無にかかわらず、ひとりの人間として大切にされる権利を平等にもっていることが示されている。このことを確認した上で、「考えよう！みんなの凸凹」の学習に取り組むことは、自分にも友達にも同じように権利があることを実感し、自他の違いを認め合いながら、誰もが安心して参加できる集団をつくるために大切であると考え。そのために、3年生で学習した「子どもの権利条約」を再度、想起し確認することは、必須である。

「考えよう！みんなの凸凹」の学習では、発達課題や発達障がい、愛着課題、つらい経験や強い不安、ジェンダーに関わる多様なあり方を取り扱う。

【取り扱う課題にかかわると特性（指導者の押さえておく視点から）

○発達障がいは、脳機能の発達に関係する特性であり、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、LD（学習障害）などが含まれる。その表れ方や程度は一人ひとり異なり、複数の特性が重なって見られることもある。本実践では、診断名で児童を分類するのではなく、友達の行動の背景にある困り感や、環境との合いにくさに目を向けることを大切にする。今回は特に、ADHDとASDについて取り上げる。

（ADHD＝キャラクター：ポッケ）（ASD＝キャラクター：マレー）

○アタッチメント（愛着）の課題については、安心できる大人との関係のもちにくさや、安心感の不足が、情緒面・行動面・対人関係などに影響することがあるという視点から扱う。

（愛着課題＝キャラクター：ルミ）

○つらい経験や強い不安が子どもの情緒面や行動面に影響することがあるという視点については、児童に直接的・専門的に扱う内容とはせず、指導者が児童理解を深めるための視点として大切にする。トラウマは、災害、虐待、暴力、事故、いじめ、家族の機能不全など、本人にとって強い恐怖や無力感を伴う体験と、その後心身へ残る影響を含むものであり、子どもの場合は言葉ではなく、落ち着きのなさ、怒り、固まり、集中困難、学習のしにくさ、人間関係の不安定さとして表れることがある。したがって、本実践では個別の経験を扱うのではなく、「見えている行動の背景には、見えにくい不安や困り感があるかもしれない」という指導者の見取り（＝事実を捉えること）を土台にする。（（見取り⇒見立て（もしかすると〇〇だからではないか）⇒支援（具体的に〇〇しよう）となる）

（つらい経験＝キャラクター：ピノ）

○ジェンダーに関わる多様なあり方については、性別を外見や思い込みで決めつけるのではなく、本人が大切にしている自分らしさや呼ばれ方、安心して過ごせる関わり方を考える視点として扱う。

（ジェンダー平等＝キャラクター：サイド）

授業では、特定の背景や経験を取り上げるのではなく、「困っている行動の背景には、本人にも説明しにくい不安や、安心感のもちにくさがある場合がある」という程度にとどめる。その上で、安心して関わるために、周囲がどのような声かけや支援を考えられるかを重視する。これは、表面上の問題行動だけでなく、その子が環境や状況になんとか適応し、生きていくために身につけてきた反応として理解しようとする姿勢であり、児童

には「決めつけずに考える（＝見取り・見立て）」「安心できる関わりを選ぶ（＝快適、心地よい）」という形で伝える。

フレンドリープラネットでは、5人の宇宙人が地球にやってくるきっかけとしてスポーツ大会を設定した。そこで、それぞれの自己紹介を通して、特性や多様なあり方、これまでの経験があることを知る。その後、5人の宇宙人は、地球という新しい環境で困りごとに出会う。その困りごとをスポーツ大会の100m走とサッカー競技の場面に置き換え、100m走では環境調整や物理的な配慮を、サッカーではルールづくりやチームワーク、人との関わり方を考える。

この題材を通して、これまでの学級の取り組みで育ってきた、友達の内面と向き合おうとする意識をもとに、自分の努力だけでは解決しにくい困りごとがあることに気づくことができるだろう。そして、できないことを責めるのではなく、どのような環境や関わりがあれば参加しやすくなるのかを考え、互いに支え合う関係を深めていくようにすることができるようにになると考える。

【取り扱う課題にかかわると特性（特別支援・合理的配慮の視点から）】

診断名・特性	内容と支援
ADHD 注意欠陥多動性障がい	一人ひとりによって目立つ特性は異なり、大きく3つに分けると以下である。ただし、そういう「場合がある」という認識として記載する。 <u>不注意</u>：一つのことに集中し続けることや、必要な物を整理して管理することが難しい。 <u>多動性</u>：じっとしていることが難しく、体を動かしたくなったり、話し続けたりする。 <u>衝動性</u>：順番を待つことや、相手の話を最後まで聞いてから行動することが難しい。 こうした姿は、わざと困らせようとしているのではなく、状況に応じて行動を調整することに困難があるために表れる。 ★支援としては、短く具体的に伝える、見通しを示す、刺激を調整する、できたことを具体的に認めるなどの工夫が有効である。
ASD 自閉症スペクトラム症	社会的コミュニケーションや対人関係の取り方、行動や興味・関心のもち方、感覚の感じ方などに特徴が見られる神経発達症の一つ。 以前は「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」などの名称で説明されることもあったが、現在はASD（自閉スペクトラム症）として、連続性のある多様な特性として捉えられることが多い。困難を感じる「場合がある」場面は以下である。 ①相手の表情や場の状況を読み取ること、曖昧な指示を理解すること、急な予定変更に対応すること。 ②決まった手順や見通しがあると安心して活動しやすい一方、音や光、触感などの感覚刺激に敏感さや鈍感さが見られること。 こうした姿を本人のわがままと捉えるのではなく、環境や状況への合わせにくさや見通しのもちにくさから生じる困り感として理解することが大切である。 ★支援としては、短く具体的に伝える、予定や手順を視覚的に示す、環境を調整する、得意なことや関心を生かして関われる場面をつくるなどの工夫が考えられる。
アタッチメント(愛着課題)	安心できる大人との関係を築き、困ったときに頼ることが難しく、背景には、生活環境、人間関係、喪失体験、長く続く不安や緊張など、さまざまな要因が関わることもある。 ①安心できる関係の中で人を信頼することに難しさがある。 ②自分の気持ちを落ち着けたりすることに難しさが見られる。 したがって、子どもの行動を「わがまま」や「問題行動」とだけ捉えるのではなく、安心感や信頼関係の不足から生じる困り感として理解することが大切である。

	★支援としては、その行動を「わがまま」「反抗」と決めつけず、背景にある不安・緊張・信頼しにくさを想定し（見取り⇒見立て）、短く穏やかな声かけ、選択肢を用意、困ったときに頼れる方法や場所を提示しておくことなどが考えられる。																		
つらい経験や強い不安による影響（トラウマ）	これを経験したことにより、<u>自分の気持ちを落ち着けることが難しくなる場合がある。</u> 危険が去った後も心身が警戒状態に置かれやすく、フラッシュバックした場合、攻撃、回避、フリーズ、感情の麻痺がおこる場合がある。これらは、危機を生き延びるために身につけた反応として理解できる。 <u>表れ方は一人ひとり異なり、落ち着きのなさ（パニック）、強い拒否（回避）、怒り（攻撃）としての表現、周囲との受け止め方のずれ（麻痺、フリーズ）などとして見えることもある。</u> 授業では、これらの背景を児童に詳しく説明したり、個人の経験と結びつけたりすることは避ける。ただし、指導者が子どもの行動の背景を丁寧に見取り、見立て、安心できる関わりを考え支援するための視点として扱うため、重要である。 この視点をもつことで、子どもの行動を単なるわがままや反抗と決めつけるのではなく、背景にある不安や困り感に目を向けることができる。児童に対しては、具体的な経験を尋ねたり原因を探ったりするのではなく、「困っている友達には、見えにくい理由があるかもしれない」と受け止め、安心して関われる方法を考えることにつなげていく。大声、突然の接触、強制、威圧的な態度、予告のない変更などは、子どもを再び不安にさせる場合があるため、見通しを示し、落ち着いた後に「何が起きたのか」「どんな気持ちだったのか」を一緒に整理する関わりを大切にする。 ★対応としては、まず安全を確保し、刺激を減らし、安心できる場所や距離を用意することを大切にする。声かけは短く穏やかにし、「ここで休む」「先生と少し話す」など小さな選択肢を示すことで、子どもが自分で決められる感覚を取り戻せるようにする。 ※逆境的小児期体験（ACE）は子どもの心身、学習、対人関係に長期的な影響を及ぼすことがある一方、肯定的小児期体験（PCE）は回復力を支える大切な力となる。PCEの積み重ねとして学校でできることは、毎日のあいさつ、名前を呼ぶこと、話を最後まで聞くこと、小さな変化に気付くこと、失敗してもやり直せる雰囲気をつくることと言える。これにより、子どもが「自分は見てもらえている」「ここにいてよい」と感じる肯定的な体験になり得る。本実践でも、特別な支援だけでなく、学級全体の安心感を高める日常的な関わりを重視する。 <table><tr><th>項目</th><th>ACE（逆境的小児期体験）</th><th>トラウマ</th></tr><tr><td>意味</td><td>子ども時代の逆境体験</td><td>つらい体験によって心身に残る傷つきや反応</td></tr><tr><td>何を指すか</td><td>体験の「種類」や「数」</td><td>その体験によって起きる「影響」</td></tr><tr><td>例</td><td>虐待、ネグレクト、家庭内暴力、家族の精神疾患、離別、貧困、いじめなど</td><td>フラッシュバック、過覚醒、不安、怒り、解離、無力感、対人不信など</td></tr><tr><td>視点</td><td>どんな逆境を経験したか</td><td>その経験が本人にどう影響したか</td></tr><tr><td>関係</td><td>トラウマの原因になり得る</td><td>ACEの結果として生じることがある</td></tr></table>	項目	ACE（逆境的小児期体験）	トラウマ	意味	子ども時代の逆境体験	つらい体験によって心身に残る傷つきや反応	何を指すか	体験の「種類」や「数」	その体験によって起きる「影響」	例	虐待、ネグレクト、家庭内暴力、家族の精神疾患、離別、貧困、いじめなど	フラッシュバック、過覚醒、不安、怒り、解離、無力感、対人不信など	視点	どんな逆境を経験したか	その経験が本人にどう影響したか	関係	トラウマの原因になり得る	ACEの結果として生じることがある
項目	ACE（逆境的小児期体験）	トラウマ																	
意味	子ども時代の逆境体験	つらい体験によって心身に残る傷つきや反応																	
何を指すか	体験の「種類」や「数」	その体験によって起きる「影響」																	
例	虐待、ネグレクト、家庭内暴力、家族の精神疾患、離別、貧困、いじめなど	フラッシュバック、過覚醒、不安、怒り、解離、無力感、対人不信など																	
視点	どんな逆境を経験したか	その経験が本人にどう影響したか																	
関係	トラウマの原因になり得る	ACEの結果として生じることがある																	
ジェンダーに関わる多様なあり方	ジェンダーについては、「男の子だから」「女の子だから」という固定的な見方だけでは捉えきれない、「一人ひとりの自分らしさに関わる大切なあり方」である。																		

	見た目から周囲に思われる性別と、本人が大切にしている性別の感じ方や過ごし方が異なる場合、本人は日常の中で苦しさや不安を抱えることがある。学校生活や社会生活においては、以下の5つが自分を否定されたように感じるきっかけになると考えられる。 ①名前の呼ばれ方②服装③更衣場所④トイレの場所⑤友だちや家族、身近なの何気ない言葉。だからこそ、授業では特定の児童を想定したり、性のあり方を決めつけたりせず、見た目や思い込みだけで人を判断しないことを大切にする。本人の思いや呼ばれ方、安心できる関わり方を尊重することは、その子が集団の中で自分らしく過ごす支えとなる。ジェンダーの多様性を扱うことは、誰もが安心して生活するための人権学習である。 ※文部科学省は、男女共同参画や性の多様性に関わる学習を、社会科、家庭科、道徳、特別活動、人権教育など、教育活動全体を通して発達段階に応じて扱うことができるものとして示している。小学校では、「男の子らしさ」「女の子らしさ」への思い込みに気付き、性別にかかわらず一人ひとりを大切にする態度を育てることが求められる。 ★学校としては、本人が不安や困り感を話しやすい環境を整え、担任だけで抱え込まず、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携して組織的に対応する。呼ばれ方、服装、更衣、トイレ、授業や行事への参加については、本人や保護者の意向を丁寧に聞き取り、個別の事情に応じて検討する。 ★特に、本人の性のあり方や相談内容を、本人の了解なく周囲に伝えるアウティングは重大な人権侵害につながるため、必ず防止する。学級全体には、特定の児童を取り上げず、「見た目や思い込みだけで人を決めつけない」という人権尊重の視点で指導する。とある。
--	--

参考資料

発達障害について厚生労働省「発達障害者支援施策」及び国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター「発達障害とは」/ASD・ADHDの特性や支援方法について、発達障害ナビポータル「自閉症スペクトラム障害（ASD）」（2021年8月3日掲載）及び厚生労働省「発達障害の理解 ～メンタルヘルスに配慮すべき人への支援～」（2019年10月9日資料）/環境調整や合理的配慮については、文部科学省「合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ報告 一学校における『合理的配慮』の観点一」（平成24年2月13日）/愛着やトラウマについては、文部科学省「第2章 心のケア 各論」（掲載日記載なし）及び文部科学省「学校における子供の心のケアーサインを見逃さないためにー」（平成26年3月）/ジェンダー平等や性の多様性については、文部科学省「学校と地域で育む男女共同参画の促進」（ページ公表日：2026年7月16日、関連報告書：令和4年3月25日）、文部科学省「性的マイノリティに関する施策」（ページ公表日：2026年5月6日）、文部科学省「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成28年4月）及び「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（平成27年4月30日通知）

（3）指導にあたって

「考えよう！みんなの凸凹ー子どもの権利条約からフレンドリー・プラネットへー」は、全6時間で構成する。

第Ⅰ次では、まず、こども家庭庁のパンフレットを用いて、子どもも一人の人間として権利をもつ主体であることを確認する。（「こども」表記については、年齢で一律に区切らず、権利の主体として捉える意味を込めて「こども」と表記する。）権利はわがままとは異なり、誰もが安心して生活し、自分らしく成長していくために大切なものであることを押さえる。その後、子どもの権利条約カードや第1条から第40条までの抄訳一覧をもとに、今の自分にとって大切だと思う権利を選び、その理由を交流する。友達と選ぶ権利や理由が違うことに気付き、それを通して、考え方の違いは、それぞれの生活環境や経験、大切にしている思いの違いから生まれることを理解するようにする。

第Ⅱ次では、自分の権利だけでなく、友達の権利にも目を向ける。「守られている権利」と「守られていないかもしれない権利」について考えることで、権利は自分だけのものではなく、友達にも同じようにあることを確認する。特に、外見や言動だけで相手を判断したり、「わがまま」と決めつけたりすることが、相手の権利を大切にしない関わりにつながる場合があることに気付くようにする。この学習を通して、後半の「みんなの凸

四」の学習へつなげていく。

第Ⅲ次では、「フレンドリー・プラネットへようこそ」を題材に、5人の宇宙人の自己紹介を聞き、それぞれの特性や困りごと、多様なあり方について考える。100m走のリハーサルで起きた困りごとをもとに、本人の心の声に注目し、表面に見える行動だけでなく、その背景にある「参加しにくさ」や「不安」、「環境や状況への合わせにくさ」、「自分らしく過ごしたい思い」について考えることができるようにする。さらに、サッカーの場面では、全員が参加しやすくなるためのルールや環境合わせを班で話し合い、提案する。ここでは、相手の立場に立って考えることや、集団の中で誰もが参加できる関わり方を考えることを大切にできるようにする。

第Ⅳ次では、スポーツ大会の成功を振り返り、改めて子どもの権利条約の視点に立ち返る。自分と友達の凸凹を、できないことや困った行動としてだけ見るのではなく、一人ひとりの違いや困り感として受け止めることの大切さを確認する。そして、集団の中でどのような声かけやルール、関わり方を大切にすれば、誰もが安心して参加できるのかを考える。これまでの学習を通して、自他の違いを認め合い、互いに支え合う集団づくりにつなげていく。

8. 指導計画全6時間

次	時	学習内容と目標
I	2	《子どもの権利について深めよう》 ○こども家庭庁パンフレットを読み、「子どもも権利をもつ主体である」ことを知る。権利とわがままの違い、権利があることで安心して生活できることを考える。 ○日本ユニセフ協会の子どもの権利条約カードや第1～40の表を見て、今の自分にとって大切だと思う権利を選び、理由を交流し、自他の考え方の違いを認めながら、それがこれまで生活環境やそれぞれの多様な経験からくることを認識する。
II	1	《自分の権利、友達の権利が守られているかどうか考える》 ○「守られている権利」「守られていないかもしれない権利」を考え、権利は自分だけでなく友達にもあることを確認する。 ○特に、自分ではない「他者」を理解するためには、外見や言動のみで自分勝手に判断することが、権利侵害につながることもあることに気づき、後半の「みんなの凸凹」学習へつなぐようにする。
III	2	《フレンドリー・プラネットでみんなの凸凹を考えよう》 ○登場人物の自己紹介を聞き、100m走のリハーサルで起きた困りごとを知る。 ○本人の心の声から、参加しにくさの背景を考える。 ○サッカー場面で起きた困りごとをもとに、全員が参加できるルールや環境調整を班で考え、提案する。 ○これまでの集団活動での経験や気づきを振り返りながら、相手の立場にたつことについて考えを深める。
IV	1	《みんなの凸凹を認め合おう》～特別支援教育の視点からも～ ○スポーツ大会の成功を振り返り、子どもの権利条約の視点に立ち返る。 ○自分と友達の凸凹をどう受け止め、集団でどんな関わり方を大切にするか考える。

9. 授業展開（6時間）

【第一次】子どもの権利条約について深めよう

1時間目：「こどもの権利について考えよう」

	学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
導入	1. 「権利」という言葉から思い浮かぶことを出し合う。出し合ったことを5つに分ける。 発問：「権利と聞くと、どんなことを思い浮かべますか。」 ・生活 ・学ぶこと ・遊ぶこと・意見を言うこと ・安全に過ごすこと	・権利を「してよいこと」だけで捉えず、安心して生活し、自分らしく成長するために必要なものとして受け止められるようにする。
	めあて 「こどもの権利」について考えよう。	
	2. 子どもの権利条約がもととなってできた「こども基本法～やさしい版」のパンフレットを読む。 発問：「これは、みんなの学校生活のどんな場面とつながるでしょう。」 「すべての子どもが大切にされること」 「差別されないこと」 「意見を言えること」 「子どもにとってよいことを考えてもらえること」 の4つを確認する。（抜粋部分のみ） 3 p ・動画視聴する。 （4分）	・こども基本法の難しい用語を暗記させるのではなく、児童の生活場面に置き換えて理解できるようにする。 ・資料は必要な部分を抜粋して提示するようにする。
	 「こども基本法」動画 やさしい版 https://youtu.be/NMw-JqACFLM	こども基本法は、令和4年（2022年）に成立し、令和5年（2023年）4月1日に施行された法律。子どもの権利条約の考え方をふまえ、すべての子どもが一人の人間として尊重され、安心して成長できる社会をつくることを目的としている。 〈児童への説明〉こども基本法は、2023年から始まった、子どもを一人の人間として大切にし、子どもの意見を聴くことを大切にする法律である。
	3. 「権利」と「わがまま」の違いを考える。 発問：「自分だけがよければよいという考えは、友達の権利を大切にしていると言えるでしょうか。」	
	例) 「安心して学びたい」 「自分の意見を聞いてほしい」 「友達の話を見聞かずに自分だけ通したい」などを示し、そのカードを「権利」か「わがままか」に班で分類する。（4～5人×5班）	・権利を主張することと、他者の権利を侵すことの違いを具体例で押さえる。 ・正解を求めるのではなく、なぜそう思ったか理由を言葉にすることを大切にする。
	4. 今日分かったことをふり返りカードに書く。 ・「子どもの権利は、何のためにあるのか」	・子どもが権利をもつ主体であること、権利とわがままの違い、自分と友達の権利を同時に大

	・「自分と友達の権利を大切にするためにできること」の2つを、一文でまとめる。	切にする視点をふり返りから確認する。
--	--	--------------------

板書計画

「こどもの権利」について考えよう。

権利

・寝る、食べる、住む
・勉強する・遊ぶこと
・意見を言うこと
・安全に過ごすこと

場面カード①

わがまま

理由

場面カード④

わがまま

理由

場面カード②

権利

理由

場面カード⑤

わがまま

理由

場面カード③

権利

理由

こどもの権利、
わがままと違うのは
自分の権利も大切にして
友達の権利も大切にし
ていること

2 時間目：「自分が大切にしたい権利を選ぼう」

	学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
導入	1. 前時の学習をふり返る。 ・「こどもの権利の4つが安心して生活し、自分らしく成長するためにある」ことを確認する。 ・子どもの権利条約は全部で54条あり、具体的な「子どもの権利」を定めた第1条～40条を本時で扱うことを知る。(A4)	〈こども基本法の4つの考え方・掲示物として掲示しておく〉拡大 ・第1条から第40条までを暗記するのではなく、条文を自分の生活と結び付けて読むことを大切にする。〈子どもの権利条約カード一覧〉
	めあて 自分が大切にしたい権利を選ぼう。	
	2. 「子どもの権利条約」表一覧を読む。(A4 一覧) ・気になる条文に印を付ける。(複数可)	〈拡大を黒板に提示〉
	発問：「今の自分に関係がありそうだった権利、学校生活で大切だと思った権利、友達にも大切だと思った権利に印を付けよう。」	
	・特に心に残った権利を三つ選び、「なぜ気になったのか」を短くメモする。 ・	・読むための支援が必要な児童には、 第2条、第3条、第6条、第12条、 第19条、第23条、第28条、第29条、 第31条など、学校生活と結び付きやすい条文を指導者が示す。(16条も出てきそう)
	3. 三つの中から、今の自分にとって一番大切だと思う権利の一つを選ぶ。 ・ワークシートに、 ①選んだ条文番号、②権利の内容、 ③選んだ理由、④その権利が守られないとどんな	・理由を書くことが困難な場合、「授業」「休み時間」「友達関係」「家庭」「体や心の安心」など、生活場面から考えられるように助言する。

ことで困るかを書く。 4. 班で、選んだ権利と理由を交流する。	
発問：「友達は、どんな思いや経験からその権利を大切だと考えたのでしょうか。」 ・ 友達は何を大切にしているのかを聞き合う。 ・ 班で「私たちの班で大切にしたい権利」を一つ決め、理由をまとめる。 ・ 友達の理由を評価したり否定したりせず、「その人が大切にしていること」として聞く姿勢を育てる。 ・ 選んだ権利の違いが、生活経験や感じ方の違いから生まれることに気付かせる。 5. 各班が選んだ権利と理由を発表する。 ・ 「命・安心」「意見」「学び」「参加」「休み・遊び」「差別されない」などの観点で分けて整理する。 6. ふり返しカードに、 「今日選んだ権利」「その権利を大切にしたい理由」「友達の発表を聞いて気付いたこと」を書く。	

板書計画

自分が大切にしたい権利を選ぼう 子どもの権利条約一覧（1～40 条） 〈今の自分に関係ある〉〈学校で大事にしたい〉 〈友達にとっても大事〉と思う権利3つ選ぶ 3つ選んで、その理由→1つ選ぶ	<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1 班〇条 理由 【命】 </td> <td style="width: 33%; text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 4 班〇条 理由 【命】 </td> <td rowspan="3" style="width: 33%; vertical-align: top; padding: 10px;"> 子どもの権利 2 条（指導者提示） 6 条 12 条 23 条 28 条 29 条 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 2 班〇条 理由 【学び】 </td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 5 班〇条 理由 【命】 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 3 班〇条 理由 【遊び】 </td> <td></td> </tr> </table> まとめ 権利が自分の生活とつながっている。	1 班〇条 理由 【命】	4 班〇条 理由 【命】	子どもの権利 2 条（指導者提示） 6 条 12 条 23 条 28 条 29 条	2 班〇条 理由 【学び】	5 班〇条 理由 【命】	3 班〇条 理由 【遊び】	
1 班〇条 理由 【命】	4 班〇条 理由 【命】	子どもの権利 2 条（指導者提示） 6 条 12 条 23 条 28 条 29 条						
2 班〇条 理由 【学び】	5 班〇条 理由 【命】							
3 班〇条 理由 【遊び】								

【第Ⅱ次】自分の権利、友達の権利が守られているかどうか考える

3 時間目：「自分の権利も友達の権利も学校生活で大切にする方法を考えよう。」

	学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
導入	1. 前時に選んだ「自分にとって大切な権利」を振り返る。 ・ 前時のワークシートを見返し、自分が選んだ条文と理由を確認する。 ・ 自分が安心したいと思っているように、友達も安心したいと思っていることに気づくようにする。	○指導上の留意点〈使用教材〉 ・ 友達の振り返りを聞いて、権利を自分だけのものとしてとらえ、友達にも同じようにあるものとして考えを広げる。 ・ 第 2 条「差別されない権利」、第 6 条「生きる・育つ権利」、第 12 条「意見を聞いてもらう権利」、第 23 条「必要な支援を受けて参加する権利」、第 28 条「教育を受ける権利」、

2. 本時のめあてを知る。	第 29 条「個性や力を伸ばす教育」につなげて考えられるようにする。
めあて 自分の権利も友達も学校生活で大切にする方法を考えよう。	
・めあての () も () も学校生活で () にする方法を考えよう。 の()の部分を考えながら、めあての一つ一つの言葉のイメージや意味を確認する。 3. 学校生活の場面カードを見て、どの権利が infringed しているか考える。	・「権利＝わがまま」ではないことを再確認し、自分の願いを通すためだけのものではなく、「自分も友達も」安心して学び、生活するために大切なものであることを理解するようにする。 ・相手の権利を大切にすることが、自分の権利を守ることもつながると押さえる。
発問：この場面では、どんな権利が関係しているでしょう。その子は、どんな気持ちでいるでしょう。 見えている行動だけで決めつけず、困っていることや願いを考えてみましょう。	
例：A さんは授業中に発表したいが、笑われそうで言えない。 例：B さんは、休み時間の遊びに入りたいが、ルールが分からず参加しにくい。 例：C さんは、係活動で、自分の意見を聞いてもらえない。 例：D さんは体育で苦手なことがあり、参加するのが不安になる。 例：男の子の E さんは、友達の女の子と話していたら、からかわれそう。 ・全体で意見を出し合って、考える。 ・「安心」や「不安」は見えていないことに気づく。 ・それぞれの気持ちや、この行動の背景をイメージして意見を出し合うようにする。 4. グループで「守られている権利」「守られていないかもしれない権利」を話し合う。	・それぞれの例について、見えている行動だけではなく、見えにくい安心や不安があることを押さえる。 ・学校生活と条文を結び付けることで、守られているかどうかを考えるようにし、曖昧な理解で終わらないようにする。そのために、以下の条文を提示する。 ・第 2 条の「差別されないこと」、第 6 条の「安心して生き、育つこと」、第 12 条の「意見を聞いてもらうこと」、第 23 条の「必要な支援を受けて参加できること」、第 28 条・第 29 条の「学び、力を伸ばすこと」と関連付けるようにする。
・ 5 つの班でそれぞれ場面カードを一つ選び、ワークシートに整理する。(第 2 条、第 6 条、第 12 条、第 23 条、第 28 条、第 29 条から選ぶ) ①関係している権利 ②困っていること	発問：「その子の権利を大切にするには本人だけが頑張るのではなく、周りの人は何ができるか。」 「自分の権利と友達の権利がぶつかったように見えるとき、どうすればどちらも大切にできるか。」 ・「がまんさせる」「一人だけ特別にする」というとらえ方にならないように、声かけ、ルール、見通し、役割、聞き方など、具体的な関わり方を考えるように助言する。

③周りの人ができること ④本人ができそうなこと ・ 班で考えたことを全体で交流する。 6. 本時を振り返り、友達の権利を大切にすることができていることを1つかく。 ・ 具体的な行動として書く。 ・ 全体で交流する。	・ 次時以降の「参加しにくさ」「困り感」「環境調整」の学習へつなげるようにする。 ・ 出てきた意見を、「意見を聞く」「安心できる」「参加しやすくする」「学びやすくする」に分けて整理する。 ・ 違いがあっても一緒に活動できる方法を考える視点を強調し、次時につなげるようにする。 ・ 「子どもの権利」は、自分にも友達にもあり、友達の意見や困り感に気づき、声かけやルールを工夫することで、自分も友達も安心して生活しやすくなることを確認する。 ・ 権利条約の学習が、特別支援教育の視点や友達理解につながることを指導者が認識しておき、次時の学習でも考えていくことを押さえる。
--	---

板書計画

(自分の権利) も (友達の権利) も (大切) にする方法を考えよう					
場面 A ①〇条 ②困りごと ③周りができること ④本人ができること	場面 B ①〇条 ②困りごと ③周りができること ④本人ができること	場面 C ①〇条 ②困りごと ③周りができること ④本人ができること	場面 D ①〇条 ②困りごと ③周りができること ④本人ができること	場面 E ①〇条 ②困りごと ③周りができること ④本人ができること	2 条 (指導者提示) 6 条 12 条 23 条 28 条 29 条

【第Ⅲ次】フレンドリー・プラネットでみんなの凸凹を考えよう

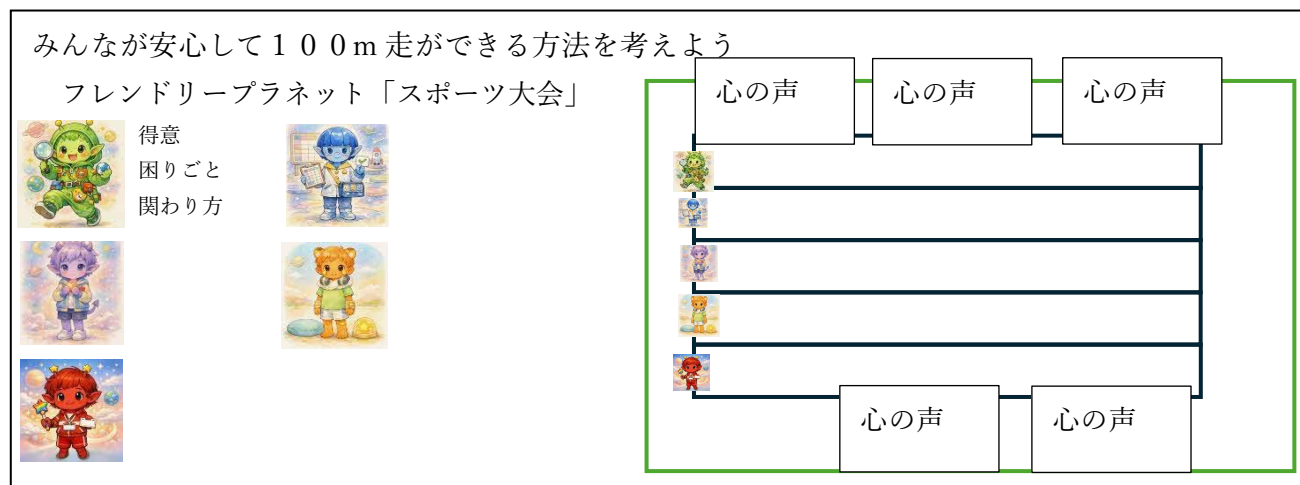
第4時間目 (60分): 「みんなが安心して100m走に参加できる方法を考えよう」

学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
1. 絵本『みえるとか みえないとか』を読み聞かせる。 ・ 宇宙飛行士の「ぼく」が、目が三つある人の星で「後ろが見えない」ことをめずらしがられる場面に着目する。 ・ 「見える」「見えない」だけで人を分けるのではなく、見え方や感じ方、当たり前は人によって違うことに気づく。 2. 読み聞かせの後、心に残ったところを短く交流する。	・ 絵本は、フレンドリー・プラネットの世界へ入るためのきっかけとして扱うが、読み聞かせそのものは落ち着いて味わえる時間を確保する。 ・ 全文を細かく読み取らせるのではなく、物語を聞いた後に「自分の見え方だけで決めつけない」という視点を共有する。 ・ 感想で、出てきた言葉から、「当たり前の違い」や「相手の世界を知る」「決めつけない」と

3. スライドを見て、フレンドリー・プラネットの設定を知る。 ・「フレンドリープラネットスポーツ大会」に参加するため、5人の宇宙人が地球に来たことを知る。 ・宇宙人たちと一緒に、みんなが楽しめるスポーツ大会をつくることを確認する。 4. 本時のめあてを知る。	いうキーワードを提示し、次の宇宙人との出会いへつなぐ。〈絵本『みえるとか みえないとか』〉 ・これまでの設定を大切にし、児童が物語の中に入って考えられるようにする。 ・絵本の「ちがう星では当たり前が違う」という気づきを、5人の宇宙人理解につなげるようにする。
めあて みんなが安心して 100m走に参加できる方法を見つけよう。	
5. 5人の宇宙人の自己紹介を聞く。 ・ポッケ、マレー、ピノ、ルミ、サイドの紹介を聞き、ワークシートに分かったことを書く。 ①得意なこと ②困りごと ③安心して参加しやすくなる関わり方を整理する。 6. 分かったことを全体で交流する。 ・5人の性格や困りごとを確認する。 7. 100m 走のリハーサル場面を見る。 ・5人が100m 走に参加しようとしている様子を見たと、「ヨーイドン」とスタートした時の行動を確認する。 ・このままでは、全員が安心して 100m 走に参加しにくいことに気づく。 ・「何が起きていたか」「どうしてそうなったのか」「心の中では何が起きていそうか」を班で考える。 ・必要に応じて、宇宙人の心の声を聞く。	・「支援する側／される側」ではなく、一緒にスポーツ大会を成功させる仲間として出会うようにする。〈スライド、登場人物カード〉 ・診断名や専門語を前面に出さず、物語の登場人物として特徴をつかむようにする。 ・「困った子」ではなく、「得意なことも困ることもある子」として受け止められるようにする。 ・①～③を確認し、黒板に掲示し、キャラクターを確認することで、次の活動での理解を深めるようにする。 〈ワークシート、登場人物カード〉 (指導者の提示の仕方) ① 5人の行動をスライド(カード)で伝える。 児童の中には、「ふざけ」「わがまま」と決めつけたり、おもしろがって笑ったりする場合が予想される。その場合は、当該児童の見取りを言語化するようにする。5人が困っていることに着目させ、「安心」して参加できるような他者の関わり方を考えるようにする。 ② なぜ、その行動をしたのか自己紹介の内容をもとに班で考えるようにする。 ③ 5人の心の声を伝える。 ④ 自分たちの見立てとの相違に気づく。 相違があったとしても考えたり想像したりしたこと自体

9. みんなが参加できる 100m 走にするための方法を考える。 ・スタートの合図、待つ場所、走る順番、見通し、音や声の大きさ、安心できる声かけなど、班で方法を考える。 10. 班で考えた方法を交流する。 ・ルール of 工夫、環境の工夫、声かけ ・関わり方、本人が選択できるようにするなど。 ・「今日、5 人の宇宙人と出会って分かったこと」 「見えている行動だけで決めつけないために大切だと思ったこと」を書く。	が重要であることを押さえる。また、決めつけるのではなく、「何か理由があるかもしれない」と考えることで、相手が安心してることを感じるようにする。 ・解決方法は、本人だけに努力を求めるのではなく、ルールや環境、周りの関わり方を変える視点を大切にする。 ・第 12 条「意見を聞いてもらう権利」、 第 23 条「必要な支援を受けて参加する権利」と関連付ける。〈班用ワークシート・教室掲示〉 ・考えた工夫を交流することで、当事者が「安心」、周りも「安心」であるか確認する。 ・次時のサッカーでは、ルールだけでなく友達としての関わり方も考えていくことを予告する。
--	--

板書計画



5 時間目：「友達の行動の理由を考えて、一緒に安心して参加できる方法を考えよう」

	学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
導入	1. 前時の 100m 走で考えたことを振り返る。 ・見えている行動だけで決めつけず、心の声や困り感を考えたことを確認する。 ・ルールや環境を変えることで、参加しやすくなることを思い出す。	・前時の「かもしれない」で考える姿勢を確認する。 ・サッカーは自分たちも一緒に参加している設定とし、自分たちの関わり方にも目を向けさせる。 ・「困っている子を助ける」に加えて、「みんなが安心して参加するには」という視点を持つようにする。

2. 本時のめあてを知る。

めあて 「友達の（行動の理由）を考えて、一緒に安心して参加できる方法を考えよう」

- ・前時と同様に、めあての（ ）に入る言葉を考える。

3. サッカーのリハーサル場面を知る。

- ・サッカー中に起きた困りごとを見る。

ルールは、5つを確認

- ・11人（内1人キーパー） ・手を使わない
- ・ゴールで1点 ・ファール(押す、蹴るなど)

◎ポッケがゴールに登る。

◎マレーがルールの理解に戸惑い、ボールを持って走る。

◎ルミが仲間の急な声かけや接近に戸惑い、距離をとる。

◎ピノがボールが顔に当たったことで強く反応し、怒りを抑えにくくなる。

◎サイドがどう見られているかで固まってしまう。

4. 班で、担当する宇宙人の困りごとの背景を考える。

- ・ワークシートに整理する。

①見えていた行動

②心の中で起きていそうなこと

③サッカーに参加しにくかった理由

④周りができる関わり方

- ・5人の心の声を聞く。

5. 「みんなが参加できるサッカールール・関わり方」を班で考える。

例：試合前にルールを絵で確認する。／役割を選べるようにする／ゴールや待つ場所を分かりやすくする。

声の大きさを決める／

急に近づかず声をかけてから近づく。／休める場所を用意する。／呼ばれ方を本人に確認する。

勝ち負けだけでなく、パスや応援も得点にする。 など

- ・ルールを変えるだけでなく、声のかけ方や近づき方も考えることを押さえる。

（指導者の提示の仕方）

①5人の行動をスライド（カード）で伝える。

児童の中には、「ふざけ」「わがまま」と決めつけたり、おもしろがって笑ったりする場合が予想される。その場合は、当該児童の見取りを言語化するようにする。5人が困っていることに着目させ、「安心」して参加できるような他者の関わり方を考えるようにする。

②なぜ、その行動をしたのか、前時のワークシート；自己紹介の内容をもとに班で考えるようにする。

③5人の心の声を伝える。

④自分たちの見立てとの相違に気づく。

相違があったとしても考えたり想像したりしたこと自体が重要であることを押さえる。また、決めつけるのではなく、「何か理由があるかもしれない」と考えることで、相手が安心してることを感じるようにする。

・強い声、急な接近、あいまいなルール、見た目での決めつけなどが参加しにくさにつながることを押さえる。

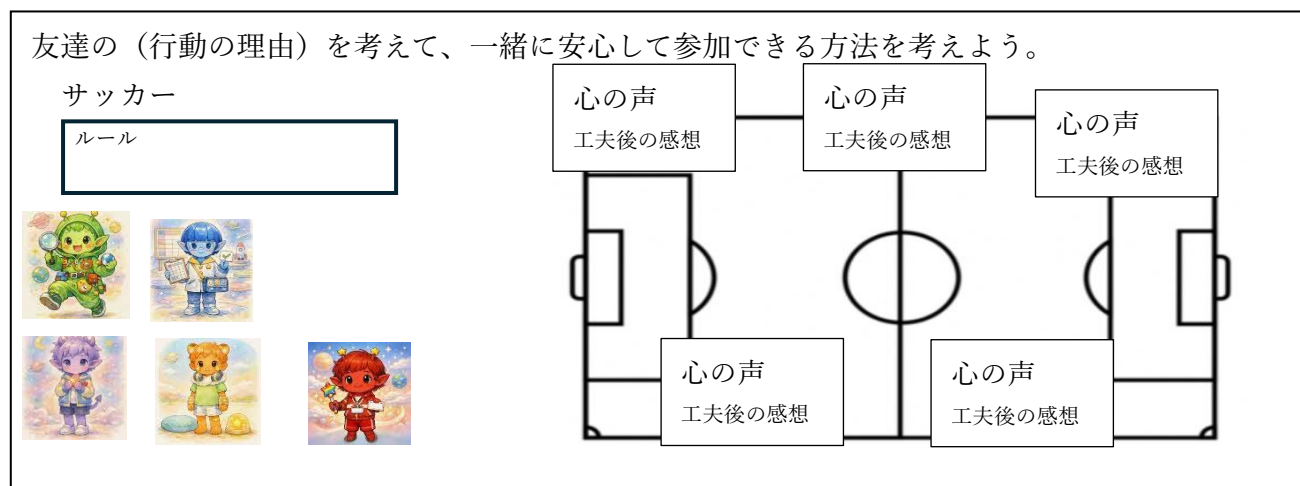
・「かもしれない」を使って、決めつけない考え方を促すようにする。

・ルールの変更だけでなく、安心できる声かけ、距離感、役割、見通し、休める場を考えるようにする。

・トラブルの原因を本人だけに置かず、環境や集団の関わりにも目を向けるようにする。

	6. 班で考えたルールや関わり方を発表する。 ・5人の宇宙人の感想を聞き、提案が安心や参加につながったかを確認する。 7. 本時を振り返る。 ・サッカーで大切だと思った工夫を書く。 ・集団生活で、自分ができそうな関わり方を一つ書く。	・ルールを変えることと、友達のとの関わり方の2つの面からみて考えるようにする。 ・誰か一人だけのためではなく、集団全体にとって安心できる工夫であることか確認する。 ・集団型のスポーツでも、少し工夫すると参加しやすくなる人がいることを押さえる。 ・自分ならどんなかわりができそうか具体的に考える。 ・初めのルールを決めておくことで、自分も友達も安心できること大切にしていたか振り返る。
--	---	---

板書計画



【第IV次】《みんなの凸凹を認め合おう》～特別支援教育の視点からも～

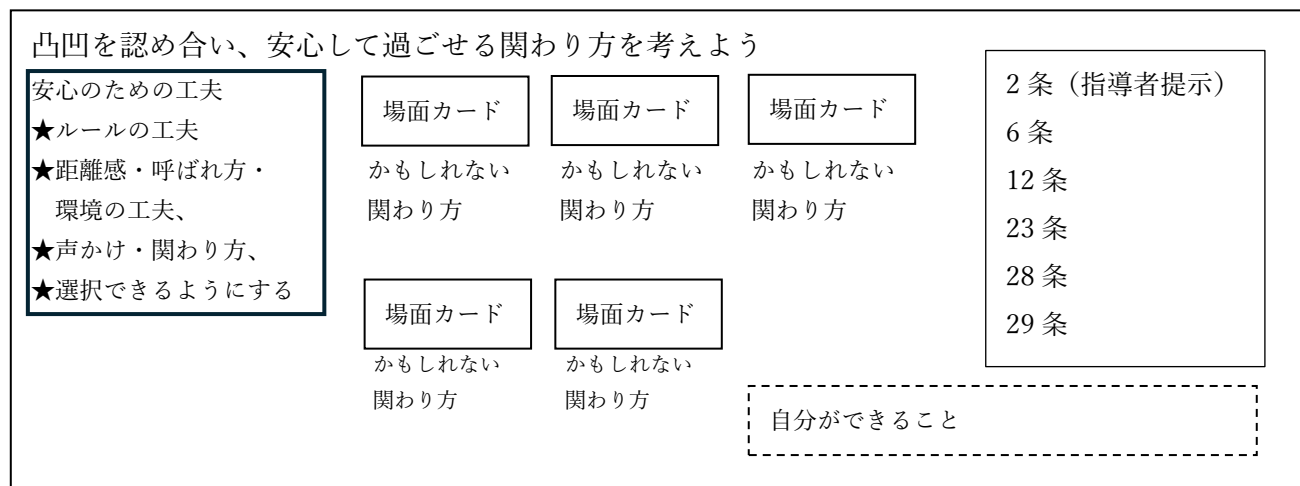
6時間目：凸凹を認め合い、安心して過ごせる関わり方を考えよう。

	学習活動	○指導上の留意点〈使用教材〉
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 ・100m 走やサッカーで ★ルールの工夫、 ★距離感・呼ばれ方・環境の工夫、 ★声かけ・関わり方、★選択できるようにする を通して、5人が参加しやすくなったことを確認する。 ・子どもの権利条約に当てはめて、より一般化して考えるようにする。	・本人だけのがんばりではなく、周りの関わり方が変わったことを押さえる。 ・特定の児童と結び付けず、誰にでも得意・苦手・困り感があること、そしてその違いがあるからこそ一人ひとりの見方や関わり方が豊かになることとして一般化して扱う。〈教室掲示〉

2. 本時のめあてを知る。	
めあて 凸凹を認め合い、安心して過ごせる関わり方を考えよう。	
3. 子どもの権利条約に立ち返る。 ・ 班で一つ権利を選び、これまでの工夫を「この工夫はどの権利を大切にしていたか」を話し合う。 5. 集団生活の中で、違いを受け止める関わり方を考える。 ・ 場面例をもとに、見えている行動だけで判断したときに起こりやすい権利侵害や差別的な見方と、背景を考えたときに見えてくるその人らしさを比べて考える。 例：友達が急に怒った。 話し合いに入らない。 体育で参加をためらう。 呼ばれ方を嫌がる。 音や声の大きさを気にする。 ・ 班で『違いを排除につなげず、その人らしさとして受け止めるための行動』を三つ考える。 6. 班で考えた『違いを魅力として受け止めるための行動』を交流する。 ・ 「違い＝仲間外れ・差別」ではなく、「違い＝その	・ 支援を『特別扱い』ではなく、誰もが参加しやすくなるための工夫として整理し、その工夫が子どもの権利条約で大切にされている 『安心して生活すること』 『必要な支援を受けること』 『意見を聞いてもらうこと』 『差別されないこと』 につながることを押さえる。 ・ 第2条・第6条・第12条・第23条・第28条・第29条とも関連付ける。 ・ 権利は自分だけでなく友達にもあることを再確認する。 (指導者の手順) ①場面を5つ提示する。 ②班でそれぞれの場面の見えている行動に対する「決めつけ」と「かもしれない」を考えるようにする。 ③班でどんな工夫をすれば、自分の権利も、相手の権利も大切にできるか、3つを考える。 『違うから仲間外れにする』『同じにできないからだめ』という見方が、「差別」につながる場合があることを押さえた上で、違いをなくすのではなく、互いの違いを知り、安心して力を出せる関わりを考えるようにする。 違いを笑ったり遠ざけたりするのではなく、『その人らしさとして知る』『どうすれば一緒に過ごしやすいか聞く』という言葉に置き換えられるようにする。 ・ 子どもの権利条約のどの条約とつながっているか考えるようにするとともに、自分の権利と友達の権利を同時に大切にする行動であるか確認する。

	人らしさや魅力」として受け止めることとが、子どもの権利条約の考え方とつながっていることを確認する。 7. 本時を振り返る。 ・『自分と友達の違いを大切にし、安心して自分らしく過ごすために、これから自分ができること』を一つ書く。 ・書いたことを数名が交流する。	・自他の違いを肯定的に受け止め、違いがあるからこそ一人ひとりが魅力的であることを、学級生活に生かせる具体的な行動として書けているか評価する。
--	--	--

板書計画



1 時間目

- ①こども家庭庁「こどもの権利の普及啓発」資料・こども基本法パンフレット：こども基本法や子どもの権利を、子どもに分かりやすい言葉で確認する導入資料として用いる。
- ②ワークシート

2 時間目

- ①子どもの権利条約抄訳一覧：第 1～40 条を一覧で確認し、学校生活やスポーツ大会の場面と関係する権利を考える際に用いる。
- ②ワークシート

3 時間目

- ①子どもの権利条約抄訳一覧（前時のもの）
- ②第 2 条「差別されない権利」、第 6 条「生きる・育つ権利」、第 12 条「意見を聞いてもらう権利」、第 23 条「必要な支援を受けて参加する権利」、第 28 条「教育を受ける権利」、第 29 条「個性や力を伸ばす教育」の個別のカード
- ②学校生活場面カード
- ③ワークシート

4 時間目

- ①絵本『みえるとか みえないとか』：フレンドリー・プラネットの世界へ入る導入として用いる。
- ②自己紹介スライド（一人ずつのやつ）・映像：5人の宇宙人が地球に来た設定や、スポーツ大会に参加する状況を共有するために用いる。（未完成）
- ③困りごと整理スライド（5人分）※使わないかも！（一応完成）
- ④登場人物カード（裏に自己紹介文が書いてある）得意なこと、苦手なこと、安心して参加しやすくなる関わり方を整理するために用いる。
- ⑤100m走場面スライド？カード？※考え中（走るときの拡大図も含め）
- ⑥ルール提案シート
- ⑦心の声カード：100m走のリハーサルで見えている行動と、背景にある困り感や心の声を分けて考えるために用いる。

5 時間目

- ①サッカー場面スライドか拡大図か考え中
- ②カード・コート図：サッカーのリハーサルで起きた困りごとを確認し、ルールや環境、距離感、声かけの工夫を考えるために用いる。
- ③班用ワークシート
- ④ルール提案シート：見えていた行動、心の中で起きていそうなこと、参加しにくかった理由、周りができる関わり方を整理し、全員が参加できるルールを提案するために用いる。
- ⑤掲示用カード：5人の宇宙人の場면을視覚的に提示し、黒板で考えを分類・整理するために用いる。
- ・⑥ワークシート：各時間の学びを記録し、自分と友達の権利や違いを大切にするために、自分ができる具体的な行動を考えるために用いる。

6 時間目

- ①これまでの工夫カード
- ②子どもの権利条約一覧とカード
- ③ワークシート

【第二次】フレンドリー・プラネットでみんなの凸凹を考えよう

<5人のキャラクター紹介>

名前と姿	色	視点	紹介文	自己紹介セリフ	100m走のリハにて	サッカーのリハにて
ポッケ  男の子 アド星から来た 5年生 	緑	ADHD	ポッケは、気になるものを見つけるとすぐに動きたくなる、元気いっぱい宇宙人。楽しいことを思いつくのが得意で、新しいことにもどんどん挑戦できる。だけど、長い時間待つこと、話を最後まで聞くこと、使ったものを片づけることは少し苦手。短い言葉で次にすることを教えてもらったり、待つ場所や片づける場所が分かりやすかったりすると、みんなと一緒に楽しく活動できる。 持ち物が多くポケットが膨らんでいる。入らず手に持っている。足がすでに一歩出ていて、すぐ動いてしまうことを表している。	「アド星からきたポッケだよ。気になるものを見つけると、すぐに動きたくなる。ぼくの星では、楽しいことを思いつくのが得意なんだ。だけど、みんな片づけないから忘れものと、落とし物がたくさんある。気になって人のものを触っちゃって、大きな声で怒られたことがたくさんあったけど、どうしても止められないんだ。 長い時間待ったり、話を最後まで聞いたり、使ったものを片づけたりするのは少し苦手。次にすることを短く教えてくれたり、待つ場所や片づける場所が分かりやすかったりすると、みんなと一緒に楽しく活動できるよ。」	(行動) スタートした後、観客席が気になって、そちらを見ながらふらふら走る。 (心の声) 「観客席のカラフルな洋服を着ている人が、旗やタオルもってる！気になるなあ〜。もっと近くに行きたいよ〜好きなものいっぱいある。観客席に行こうかな、どうしよう。」	(行動) 「わー！すごい！」と言って、サッカーゴールにのぼる。 (心の声) なんだあれ??「ゴール」っていうやつ?? ひゃっほーい！ 上って見下ろしたら気持ちいいだろうな〜！ のぼりた い!.....(その後、ゴールにのぼる)
マレー  男の子 オーリス星	青	ASD	マレーは、予定やルールが分かると安心して力を出せる宇宙人。好きなことはとてもよく覚えていて、地図や表、きまりを見つけることが得意。だけど、急に予定が変わったり、あいまいな言葉で言われたりすると、何をすればよいのか分からなくなることがあるよ。先に予定を知	「オーリス星から来たマレーです。今日は7時に起きて、顔を洗って、着替えて、7時半に朝ごはんを食べました。予定は決まっています。 1か月先の天気も、電車の時刻もすべて覚えています。ぼくの誕生日は2018年8月31日金曜日です。朝4時32分に生まれました。カレンダー	(行動) スタートの合図があるけど、動かず固まっている。 (心の声) 100m走ってこんなに長かったんですか。わからないから、走れないです。	(行動) 「あっ！ボールがきた。」と手でもって、ゴールのほうに自分で走って持って行ってしまった。 (心の声) ああ、また笛の音が聞こえました。あ！ボー

5年生 			らせてもらったり、はっきりした言葉や見える手がかりがあったりすると、落ち着いて参加できる。 気もちは絵カードで示す。確認できるようにメモや表を持っている。	時間を覚えるのは得意デス。でも、予定が変わったり、「こんな感じ」とか適当に言われたりすると、何をすればよいのかわかりません。気持ちを伝えるのが苦手です。本当に困ったら、目をぱちぱちさせてしまいます。」	ピストルの音で、合図されても、どっちの足から出したらいいかまらずは決めなど、わからないし、いったい何が始まるが全然わからないです！音も怖い！	ルが私の方へ転がってきました。みんなもボールで遊んでいるから、私はボールを持っています。あれ？どうしてみんなおこっているのですか？手は使ってはいけないのですか？
ルミ  女の子 ギューナ星 5年生 	紫	愛着課題	ルミは、本当はだれかと仲よくしたい気持ちをもっている宇宙人。やさしくされるとうれしい気持ちもあるけど、人を信じることに不安があり、すぐには近づけずに距離をとったり、一人で安心できる場所に行きたくなったりすることがある。仲間にさそわれても、急だと固まってしまったり、すぐには入れなかったりすることがあるし、少し注意されると、引きこもるように気持ちを閉じてしまう。急に近づきすぎず、同じようにやさしく声をかけ続けてもらうと、少しずつ安心して関われるようになる。 ハートを胸に持って、大事にしている。優しさ、愛が怖いと感じてしまう。	「ギューナ星からルミだよ。すごく緊張しているわ…。私がいた星では、王様が星の住民を強くするために、禁止していたことがあるの。それは、「優しくすること」「仲良くすること」。だから赤ちゃんが泣いても、抱っこしないの。ここに来たら、びっくりしたわ。みんな友達とニコニコ笑って仲良くしている。前に地球人が「かわいい」って抱っこしてくれたの。本当はうれしかったけど、「やめて」って逃げ出しちゃった。でも最近、「抱っこ」とか「手をつなぐ」って素敵だになって気が付いた。知らないことたくさんあるね。	(行動) スタートの合図があるけど、動かず固まっている。 (心の声) うわ～！たくさんの人に見られてる。はずかしい。もし転んだらどうしたらいいの。一番遅かったらどうしよう、失敗するのがすごくこわい。失敗したら、みんなが私のこと嫌いになっちゃう。失敗したくないし、、もうここからいなくなりたい！	(行動) 「ちょっといきなり、近づかないで！」といって、仲間をにらんで、少し逃げるように距離をあける。 (心の声) 同じチームの友だちが、「一緒にがんばろう！大丈夫だよ。」って言ってくれた。これがやさしさとなかよし？とっても嬉しかったのに、ギロツて睨んで、手を振り払ってしまったの。 はあ…。どうすればよかったのかな。

ピノ  女の子 ヒート星 5年生 	オ レ ン ジ	強い不安・つらい経験 ピノは、本当はみんなと一緒に過ごしたい気持ちをもっている宇宙人。でも、つらい経験から、安心できない場面では自分を守ろうとして、強い言い方をしたり、反発的に見える態度をとったり、わがままのように見える行動になったりすることがある。大きな音や強い声、急に近づいてくるものに体がびっくりして、攻撃的に見える反応が出てしまうこともある。安心できる場所があったり、音や声の大きさを少し工夫してもらったり、落ち着いてから気持ちを聞いてもらったりすると、少しずつ安心してみんなと一緒に過ごしやすいよ。 周りが気になったら、いつでも落ち着けるようにヘッドホンをつけている。	「私はピノ。ヒート星から来た。この星のみんなは優しいな。わたしの星では、ダメなことをしたら、たたいたり、大きな声で怒鳴ったりする。それで、正しいことを教えるルールがあったんだ。小さいころから、学校でも町でもケンカだらけ。いつも叩かれてた。前に、一回頭をグーで殴られたときに、気を失って気づいたら病院にいたんだ。今は、その病院の先生に治療してもらってる。 病院の先生が教えてくれたんだけど、私が大きな音で震えたり、頭に刺激があったりするとイライラして暴れてしまうのは、心の傷が原因なんだって。でもつらかったことあんまり覚えてない。	(行動) 「にらまないでよ！うざい！」と文句を言う。走っている途中で止まってゴールまで、わざとゆっくり走る。 (心の声) 不安だな。前に友達と競争して、負けてから毎日悪口言われてたのを思い出したな。しかも、あの時は足が遅いって叩かれたな。応援の声が、私のことなんかいってるのかな。「何言ってんの」って言ってやろう。だんだん腹立ってきた。真面目に走ったら負けるし、また悪口言われたら怖いから、わざとゆっくりにしよう。	(行動) プレー中に、ボールが顔に当たる…「いた！なにをするの！当てたのだれ！絶対許さない！」 (心の声) ……………(その後、敵、味方関係なく殴る、蹴るしてしまう。審判に力づくで止めてもらう。相手が憎いわけじゃないのに自分ではどうにも止まらない。そして、腹が立ったらそのあとのことはあんまり覚えていない…)
サイド  男の子(女の子)	赤	性の多様性 サイドは、周りからは男の子と思われることが多いけれど、自分では女の子として過ごしたい気持ちをもっている宇宙人。好きな服や呼ばれ方、自分らしいふるまいを大切にしたいと思っている。でも、見た目だけで決めつけられたり、「男の子だ	レイン星からきたサイドだよ。私の星では、なんでも「男の子」と「女の子」を分けて考えるの。「女の子は、絶対にスカートをはきなさい」とか、「男の子は、髪の毛のばすの禁止」とか。見た目ですべて決めつけるんだ。もう、うんざり！だけど、それを言う	(行動) 集中できなくてフライングを3回して落ち込んで走れない。 (心の声) 頑張りたいけど、私ってどう見えてるんだろう。男の子だから速く	(行動) 自分からボールをけらずに突っ立っている。 (心の声) 本当は、サッカー大好きなんだけど、周りから見て「張り切ってる」とか、「がっこい

レイン星
5年生



から」「女の子だから」と言われたりすると、安心して自分を出しにくくなる。本人の思いや呼ばれ方を大切にしてもらい、無理に決めつけられない関わりがあると、みんなと一緒に安心して活動できる。

自分は自分、色を決められたくないから、レインボーの星を持っている。

と、「あなたには勉強が足りない」とか、「見た目がすべてよ」って言われるの。地球に着てびっくりしたよ。だって、名前でも呼んでもらえるし、ちゃんと「好き？嫌い？」って私のこと聞いてくれるの。うれしいな～。

早く走れとか言われるのかな。そもそも決めつけるのすごくいや。苦手な自分も自分だし、速くても遅くてもサイドは、サイドだから！あ～！考えると集中できない～

い」って言われるかも。男の子だからうまいとかじゃなくて、サイドはサイド。でも周りが気になる！

第6学年 「生きる」教育 学習指導案

指導者 新田 依里 橋口 夏海

1. 日 時 令和8年9月9日(水) 第6限(14:40～15:25)

2. 学年・組 第6学年 1組 男子14名 女子12名

2組 男子14名 女子12名

3. 題材 「愛?支配?パートナーシップの視点から」

4. 題材のねらい

- (1) 様々な形のパートナーについて考えたり、違いについて説明したりすることで、「人」と「人」との関係性への理解を深めることができるようになる。
- (2) 親しい仲であるがゆえに生まれる支配的な言動に気づき、相手を大切にすることの意味を考える。
- (3) パートナーとの良好な関係を築くために、必要なことについて考え、そのために「今」できることをみいだすことができるようになる。

5. 使用教材

・キャラクターカード ・パワーポイント ・アンケートシート ・ワークシート

6. 各教科領域との関連

教科領域	内容・単元名
家庭科	【家族】「見つめてみよう生活時間」
道徳	【生命の尊さ】「命のアサガオ」「その思いを受けついで」 【キャリア】「母の仕事」「自分にできること」
特別活動	【命】愛?支配? (命) 【家族】家族について考えよう～結婚・子育て・親子関係～

7. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学年の児童は、活発でどんなことにも意欲的に取り組む児童が多い。6年生になり、縦割り班での多学年交流や、児童会活動により、少しずつ最高学年としての自覚を持った言動がみられるようになってきた。しかし、学級内ではコミュニケーションの行き違いからトラブルになることもあり、まだまだ幼い部分も持ち合わせている様子が見受けられる。「恋人」や「恋愛」に関しての経験や正しい知識はあまりない。恋愛に対する興味が芽生えることでネット検索などから偏った知識を得ていたりする児童も少なからず見受けられる。休み時間や放課後には男子女子に関係なく誰とでも仲良く遊んでいるが、一部の児童は異性を過剰に意識する様子が見られる。また、同性、異性関係なく、友人関係に「依存」したり、「支配的・不健全なかかわり」をつい繰り返したりしてしまう児童もいる。

(2) 題材の設定

友だち・親子・兄弟など相手が誰であれ、「自己決定や自由を阻害してはならない」「相手のすべてを知る権利はない」このような当然あるべき境界線が、恋愛感情や自分の心の弱さや依存心・不安感から壊れてしまうこともあるということを知り、誰もが抱く淡い恋心が、支配・依存の関係でなく、お互いを尊重し平等な立場で接することが大切であり、相手の意見や感情を尊重すること、自分を認めること、大切にすることで、良いパートナーシップを築くことが大切であるということに気づくことができるように指導したい。6年生という多感な時期にこそ、長続きする健全な人間関係について内容を理解し正しい行動ができるようにするためにこの単元を設定した。

(3) 指導にあたって

高学年では、「人」と「人」との関係性をテーマに学習を展開する。異性への関心が高まり意識し始めるこの時期に、様々なパートナーの中から、特に「恋人」に視点を置き、「恋愛」を通して、お互いを尊重することが健全な人間関係を築くということを考えた。

第I次では、アニメキャラクターから、特別な関係にあるペアを探し出し、その根拠を探る。日頃、自分を

主体にした「お父さん」「お母さん」「妹」「好きな人」などというような見方から、「夫婦」「親子」「兄弟」「友だち」「恋人」等というような、客観的な見方をし、比較することで関係性について理解を深める。特に説明しづらい「友だち」と「恋人」の違いについて、辞書で調べたり生活体験の中から話し合ったりすることで、「人を好きになる」という気持ちに対して良いイメージをもてるようにする。また、グループでデートプランをつくることで、それぞれの意見を譲り合わせたり、相手が喜ぶことを考えたりし、2人にとって幸せな一日のストーリーをつくり出すことの楽しさを味わうことができるようにする。

第Ⅱ次では、児童が仲を深めつくり上げた2人の関係性が悪化していることに気づかせ、支配的な関係に陥ってしまっている言動や根拠を言語化して伝え合う。「干渉」「依存」「束縛」などをテーマに提示する事例から、親密さゆえに精神的な距離感を逸脱してしまっていることの原因を、対話の中から見つけていく。

束縛することは愛ではないこと、相手の自己決定や自由・行動を阻害してはならないこと、相手の全てを知る権利はないこと、境界線をもつこと、など、友だちの関係であれば守れるような当たり前のことを、恋愛感情を抱くことで、間違ふことがあるという点を知ること、人を好きになるということの危険な側面の一端に触れるようにする。どんな場合においても、感情のコントロールができることが大切だということも合わせて押さえておきたい。

さらに、悪化した場合の対処法・解決法についても考え、「別れる」という選択も選択肢の一つであるということをあえて確認する。

第Ⅲ次では、人生の先輩から恋愛の素晴らしい点を教えてもらうことで、良いパートナーシップを築くために必要なこと、そして「今」から取り組めることを、改めて見いだしていく。

異性、もしくは同性に特別な感情を抱くという経験が少ない子どもたちにとって、「恋愛」について考えることはとても難しいことである。しかし、本当に人を好きになり交際がスタートする前に、小学校の授業の中で人権教育や相互尊重という視点から、恋愛について客観的に捉えることが大切なのではないかと考える。友だちとの対話の中で恋愛の楽しさを体験し、起こりうる困難と向き合っ、みんなで価値観をぶつけ合いながら思考を巡らせることで、多感な時期である今この時にこそ、全てにつながるパートナーシップの在り方について、真剣に考えてほしい。そしてそれは、異性を異性として意識し始め、親子や友だちなど、「人」と「人」との関係性の中で様々に悩み、思春期の揺れが最大限に大きくなる6年生という学年にこそ、重要な取り組みではないかと考える。心の穴を埋めるためではなく、相手を尊重し相手の幸せを願うことができる関係の素晴らしさに気づくことができるよう留意して指導にあたりたい。

8. 指導計画（全4時間）

次	時	学習内容と目標
I	2	《パートナーシップについて考えよう》 ○アニメのキャラクターから、様々な組み合わせのパートナーを見つけ出し、分類することで、関係性の違いに気づき、「恋人」や「恋愛」とは何か、現段階での自分たちの考えを話し合う。 ○架空のカップルを提示し、二人の仲が深まるためのデートプランをグループで考える。
II	1	《「愛」と「支配」を見分けよう》（本時） ○パートナーの数年後の様子を提示し、親密さゆえの支配的な言動を見つけることができるようにする。 ○関係性が悪化した場合、どうすれば改善できるかを見いだすことができるようにする。
III	1	《良いパートナーシップを築くために「今」できること》 ○恋愛の素晴らしい点と危険な点を学んだ上で、良い関係を築くためにはどんなことが必要かを話し合う。 ○そのために、「今」できることは何か、自分の考えをもつ。

9. 授業展開

(第Ⅰ次) パートナリシツについて考えよう。(1/4)

	学習活動	○指導上の留意点 <使用教材>
導入	1. 「人生の勉強」人と人とのつながりを考える。	○成長するにつれ、様々な形の「パートナー」といった関係性をもつことが多くなることを伝える。
	めあて さまざまな形のパートナーについて考えよう	
深める	2. 様々なアニメに登場するキャラクターを提示し、パートナーを仲間分けする。 3. それぞれのパートナーの違いを考える。 ※ サザエさんとタラちゃん ※ サザエさんとマスオさん ※ カツオとワカメ ※ のび太とドラえもん ※ のび太としずかちゃん ※ 工藤新一と毛利蘭 ※ ちいかわとハチワレ ※ まるちゃんとたまちゃん ・わかりにくい「恋人」について、辞書や児童アンケートを用いて考える。 【アンケート】 「好きという気持ちについて」 「恋人がいたら、相手に対してどんな気持ちになりますか。」 「友達の好き、恋人の好きの違い。」	○パートナーとは、お互いに特別な存在と思っている状態をさすことを確認する。 ○「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」「友だち」「恋人」など、グループ分けすることで様々な形があることを実感できるようにする。(キャラクターカード) ○「親子」と「夫婦」のちがひ(血のつながり等) 「夫婦」と「恋人」のちがひ(手続きがある等) 「恋人」と「友達」のちがひ(より近い?) について、どう違うか問ひかけることで、自分の経験や身近な人の関係性について考えることができるようにする。 ○違いを説明することで、関係性への理解をより深めるようにする。
まとめる	4. グループで恋人と友達の違いについて、友達のことが好きというのと、恋人の好きの違いについても、意見を交流するようにする。 5. 今日の学習を振り返る。 「恋人」や「恋愛」の場合、相手に対して様々な思いがあることを知る。	○意見が出ないグループがあれば、前で分けたキャラクターの恋人同士の好きには、どういふ気持ちがあるか考えるようにする。 ○それぞれのグループで出た意見を発表する。 ○これから思春期を迎え、恋愛をするとき、相手にどんな気持ちになるのか、いふんな考え方があふことを知る。

(板書計画)

めあて

さまざまな形のパートナーについて考えよう

特別な二人組

友だち	恋人	夫婦	親子	兄弟姉妹

(第Ⅰ次) パートナースhipについて考えよう。(2/4)

	学習活動	○指導上の留意点 <使用教材>
導入	1. 前時の振り返りを行う。	○友達と恋人の違いについて確認をする。
	めあて デートプランを考えよう	
深める	2. 4組のカップルを登場させる。 【登場するカップル】 ・22歳 左官職人(女) & 23歳保育士(男) ・22歳 シェフ(女) & 28歳バイト(男) ・35歳 看護師(女) & 38歳メイク(男) ・25歳 会社員(女) & 22歳バス教師(男)	○恋人同士のそれぞれのカップルについて、前時に学習した「好き」「一緒にいたい」という気持ちを想起したうえで、どんな関係なのかを想像する。
まとめる	3. グループで、それぞれのカップルのデートプランを考える。 4. グループで発表をする。	○グループで1組のカップルを決め、そのカップルの1日のデートプランを考える。 ○行先や移動手段など、本やカタログ、タブレット検索などを使用し、より具体的に考えられるようにする。 ○グループで協力してデートプランを考えることで、お互いを思い合い、相手の幸せを願うストーリーになるように促す。 ○役割を分担して、わかりやすく伝わるよう工夫するようにする。 ○楽しい時間・幸せな時間を共有しているところを伝えるようにする。

(板書計画)

めあて

 デートプランを考えよう。

4組のカップル

〇〇デート	〇〇デート	〇〇デート	〇〇デート

(第Ⅱ次)「愛」と「支配」を見分けよう(3/4)(本時)

	学習活動	○指導上の留意点 <使用教材>
導入	1. 前時の振り返りを行う。	
	めあて 良い関係を築く方法を考えよう	
深める	2. 4組のカップルを登場させ、2人の数年後に起きた問題を描いた様子を提示する。 3. グループで考えたことを発表する。 4. 加害者の思いを知る。 ① スマホを勝手にみる。LINE 連続投稿。 →好きな人のスマホは見てもよい。 →好きな人のラインはすぐに返すべき ② 自分の夢を押し付ける →好きな人は、夢と一緒に追いかけるべき ③ 金銭的依存 →好きな人にはおごるべき。 ④ 自分以外の人と仲良くする。 →好きな人以外の人とは、話したり遊んだりしないほうがいい。	○悩んでいることについて、どちらのなにが問題かを考え、短冊に記入する。 ○自分がされた場合の考えが、思い浮かぶことが予想される。 しかし、被害者側としての立場だけでなく、両方の立場に立って考えられるように留意する。 ○4組のカップルそれぞれの問題について、自分の考えをもつようにする。 ○指導者が仮定として加害者となり、児童に加害者の言い分として問いかける。児童は、加害者側が反省できるようになるまで「説得」する形で発表する。 ○なぜ関係が悪化したか、と問いかける。 ○そして「相手のことが、自分の所有物のように思えてきたから、このように支配者的な行動をしたのか」と続けて問いかける。
まとめる	5. 加害者側は、なぜこのような言動をしているのかを考える。 事例のような言動は、本当に相手を思っているのかなのかを考える。 6. 「すてきな好き」とは何か、「よくない好き」とは何か、自分の考えをもつ。	○「好き」だからすることと比較して考え、言動の支配的な要素に気づくようにする。 ○「すてきな好き」の行動と「よくない好き」の行動について考える。 ○「すてきな好き」に赤いハートを、「よくない好き」に黒いハートを貼り、自分たちの考えた「好きの行動」をふり返る。 ○支配的な関係にならないためにはどうすればよいのかを考えるようにする。

(板書計画)

めあて

良い関係を築く方法を考えよう

すてきな好き（赤いハート）

よくない好き（黒いハート）

④ 好きな人以外の人と、仲良くしてはいけない。

③ 好きな人にはおごる。

② 自分の夢を押し付ける。

① スマホを勝手に見る。

(第Ⅲ次) 良いパートナーシップを築くために「今」できること (4 / 4)

	学習活動	○指導上の留意点 <使用教材>
導入	1. パートナーとの良い関係を築くために必要なことを考える。	○良好な関係を維持するために、お互いに心がけることを見つけていくことを捉える。
	めあて よい関係をつくるために必要なことを考えよう	
深める	2. 人生の先輩（先生）から、恋愛の素晴らしい点を学ぶ。 ・相手が喜んでくれたらうれしい。 ・自分のことを必要としてくれている。 ・幸せなこと。 ・	○人を好きになることの素晴らしさと、注意しなければならない点の両方をふり返ることができるようにする。
まとめる	3. 良いパートナーシップを築くために「今」できることを考える。	○友だちや保護者との関係を想起させ、今からできることを見つける。

(板書計画)

めあて

よい関係をつくるために必要なことを考えよう

○人生の先輩から

○よいパートナーシップを築くためのできること

先生たちの意見